乾山遺墨

全

1冊

Kenzan
by Hoitsu
(the subject
designed by
Kenzan)

239

東叡山麓坂本町新門前天台宗善養寺

放逸無慙八十二年一口呑却沙界大千

うきこともうれしきもこえぬれは
たゝあけくれの夢計なる

霊海溌翁居士

居士皇都人也其先廬結鳴瀧
之故世稱乾山以陶匠鳴世既
久實者緒方氏也行年八十
有一歳寛保二癸亥六月二日寂

春日詠寄花神祇和歌

淡宥

春乃花も神の心の[illegible]

[illegible]

[illegible]

前輪王院准后御當乃
為ゟ田忌に逆へまゐりて
崇保院乃御石なと由乃ゆゑにて
なつかしき月乃歌のまゝ献するにも
守まもる[illegible]

諸方淡宥拝

[illegible]

くまもなき[illegible]春の雨[illegible]

露ゟ白うなし[illegible]柳れ[illegible]

躑躅

岩根[illegible]

春[illegible]

淡宥

夕顔

[illegible]

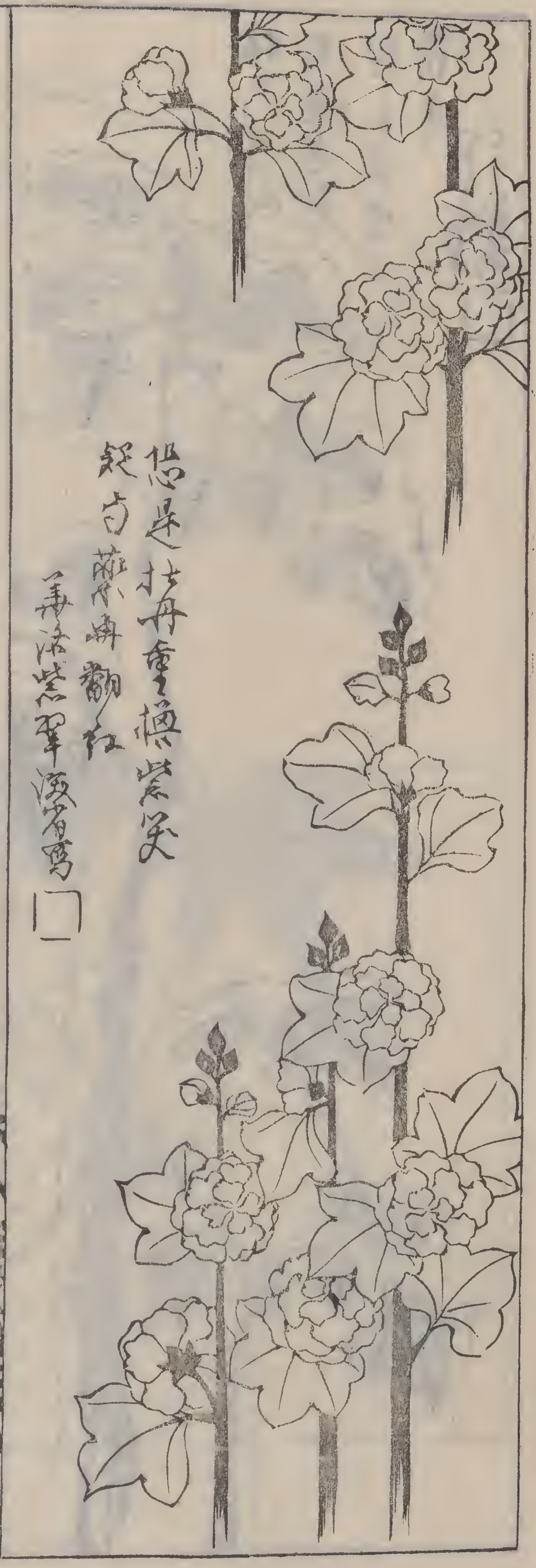
[illegible]夕顔[illegible]

淡宥

東山保祐帯娟
定山業遠會溪
京北堂宗溪畫
写

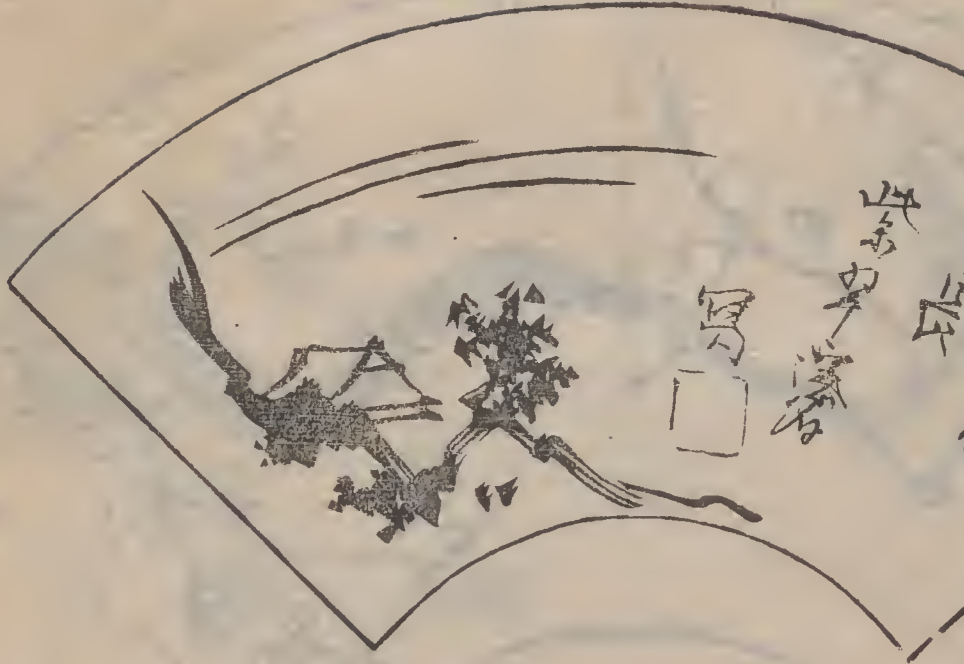
華洛散人波岩画
あのあふぎ
はるくる[illegible]
野辺の[illegible]
たしく早蕨
[illegible]の春

花[illegible]つゝ
あ[illegible]の
[illegible]
[illegible]画



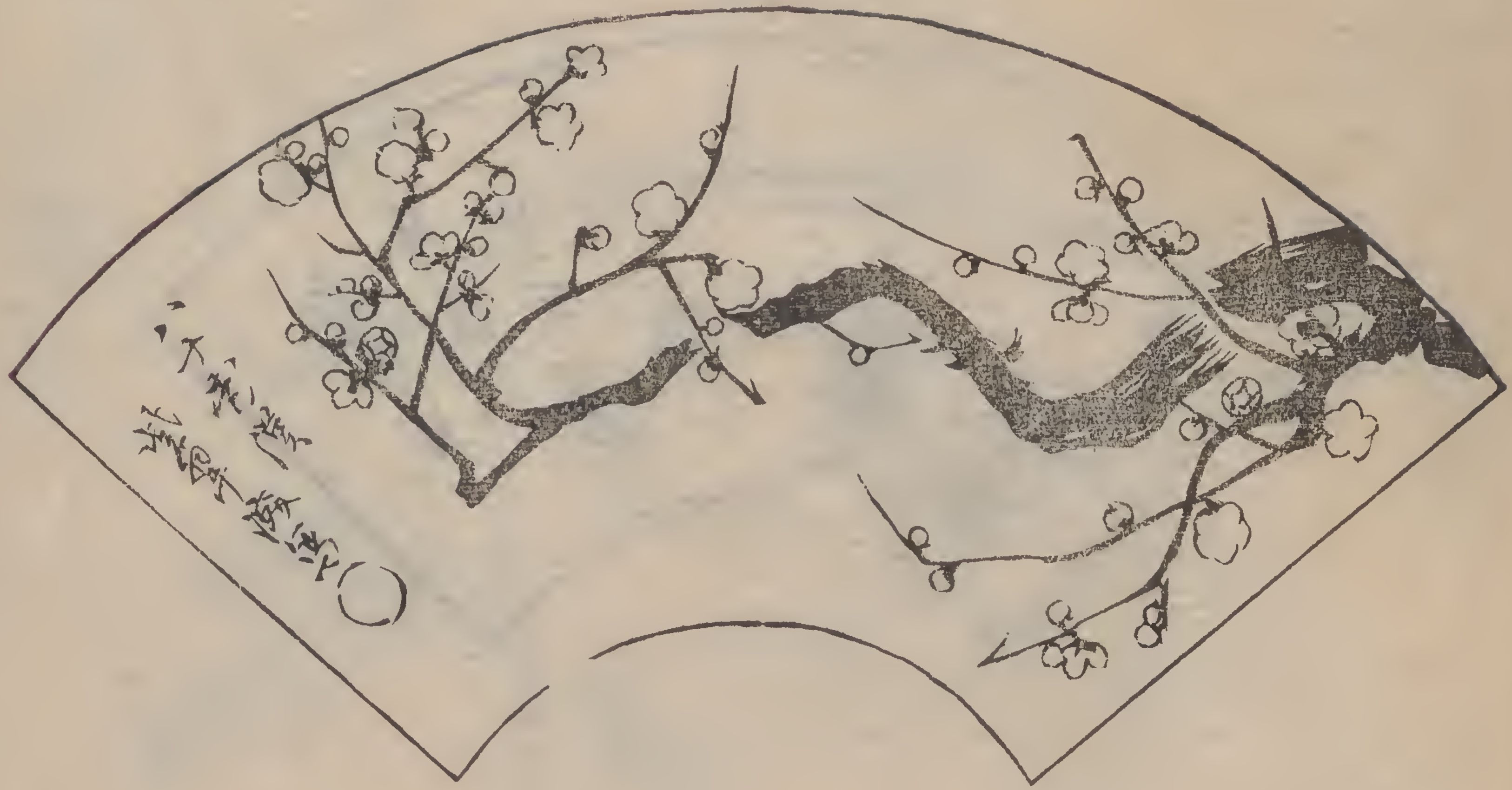
恁是扶桑重瓣葵
縦占薬欄翻紅
華洛紫翠波岩写

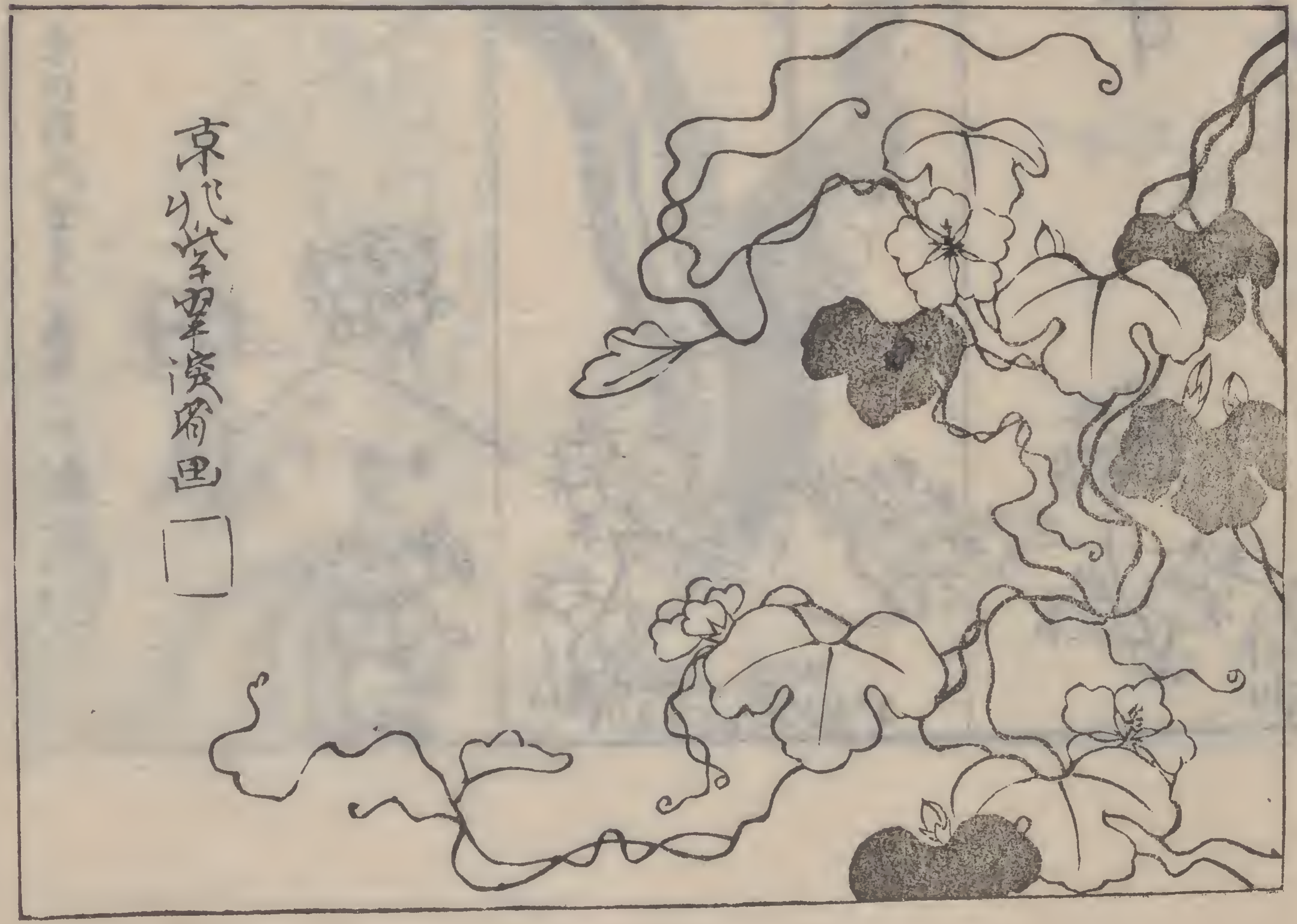
[illegible]
萩の
[illegible]の
東城[illegible]波岩画



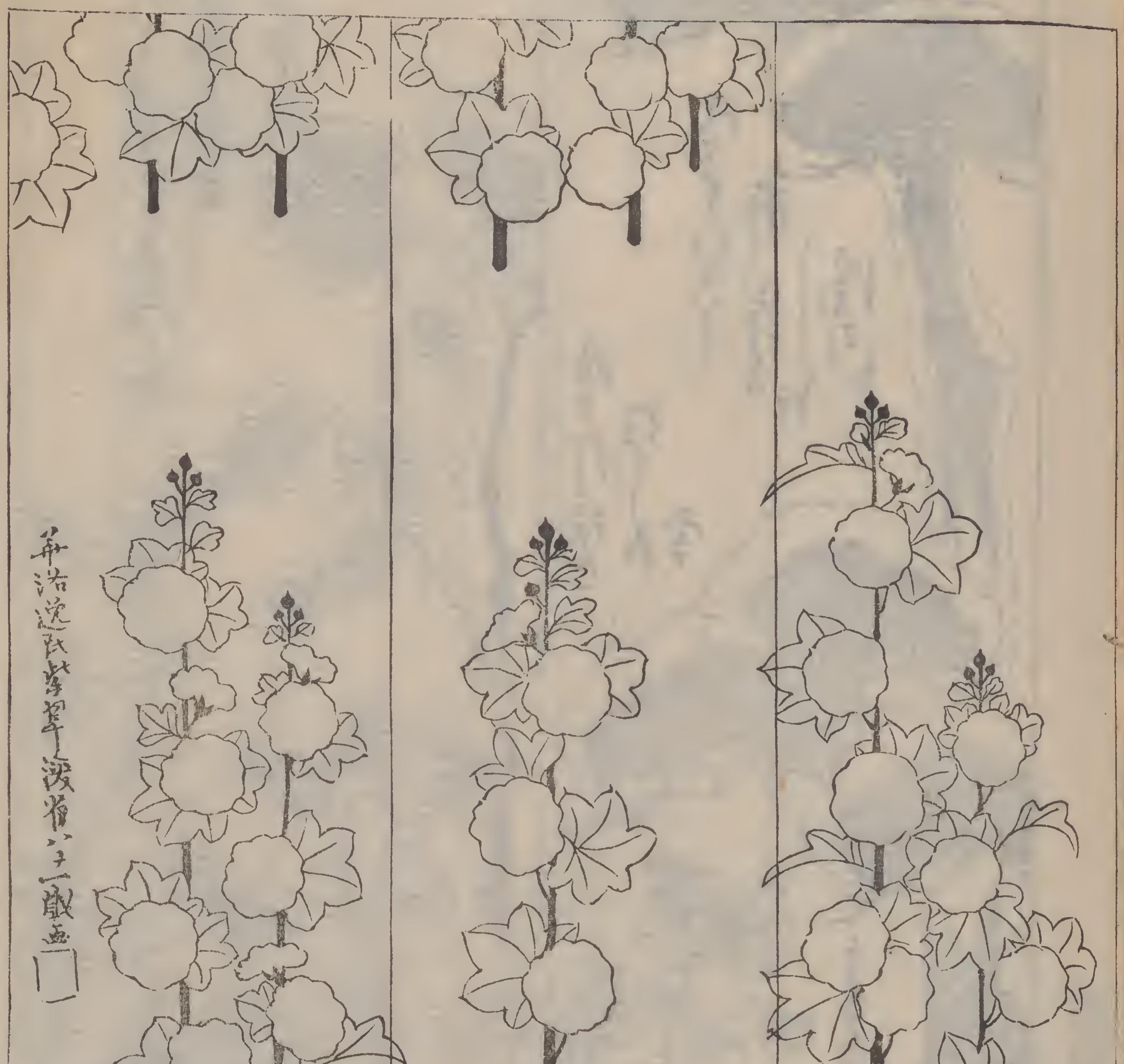
溪斎
寫

林大可同
天地老色

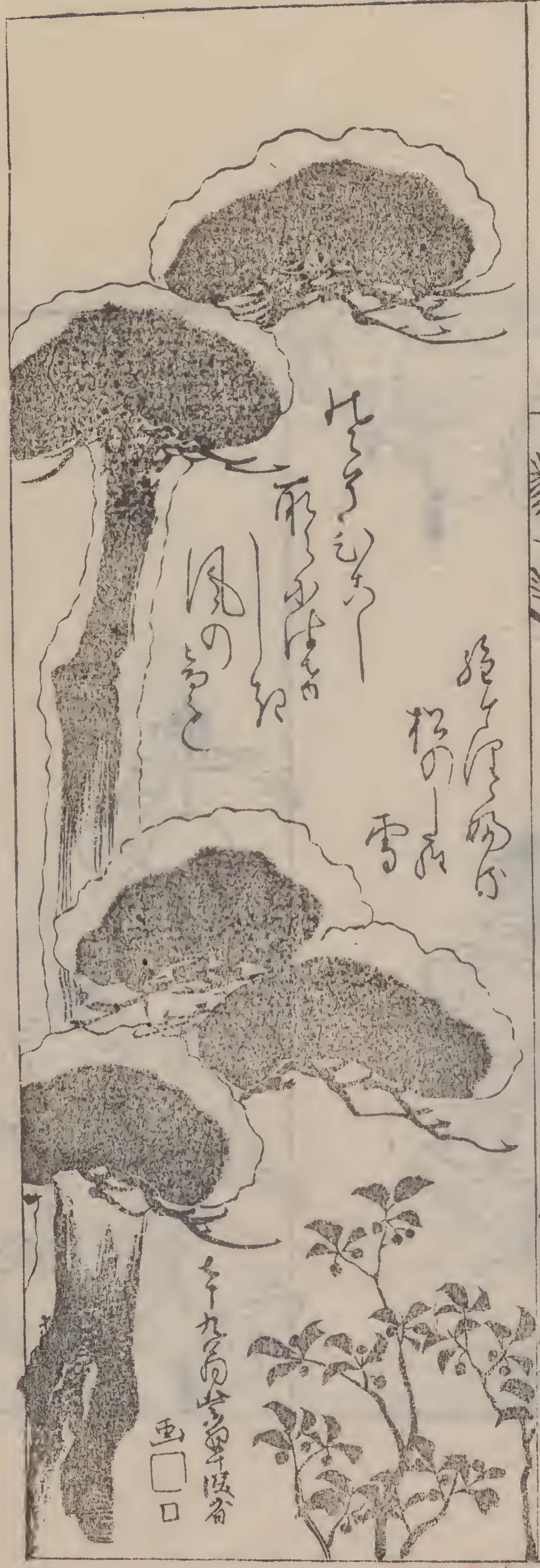



京北紫翠漢斎画

京兆散人紫翠渓省八十歳画


華洛逸民紫翠之滋省八十一歳画

夕ぐれ



眉壽目秀
六如

京兆七十八翁紫翠老人

錦たつ
やまのえ
梢乃
霜とけて
ならへり
まさる
庵のとみちて

紅しあさい
水乃くゝるも
大澤の
清ぬむるさ秋
梢の
色菊

東海紫翠千波省画

恐是牡丹重
摘紫又疑芍
藥再翻紅

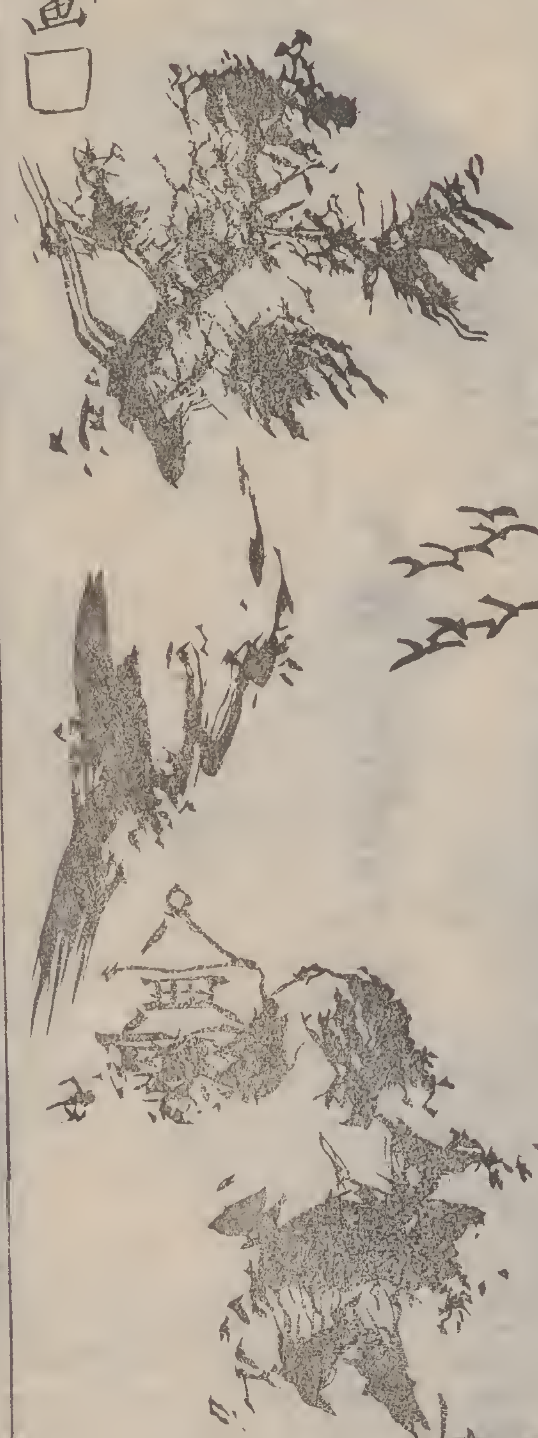
平安城逸人七十九翁
紫翠千波省岳画
益但一筆

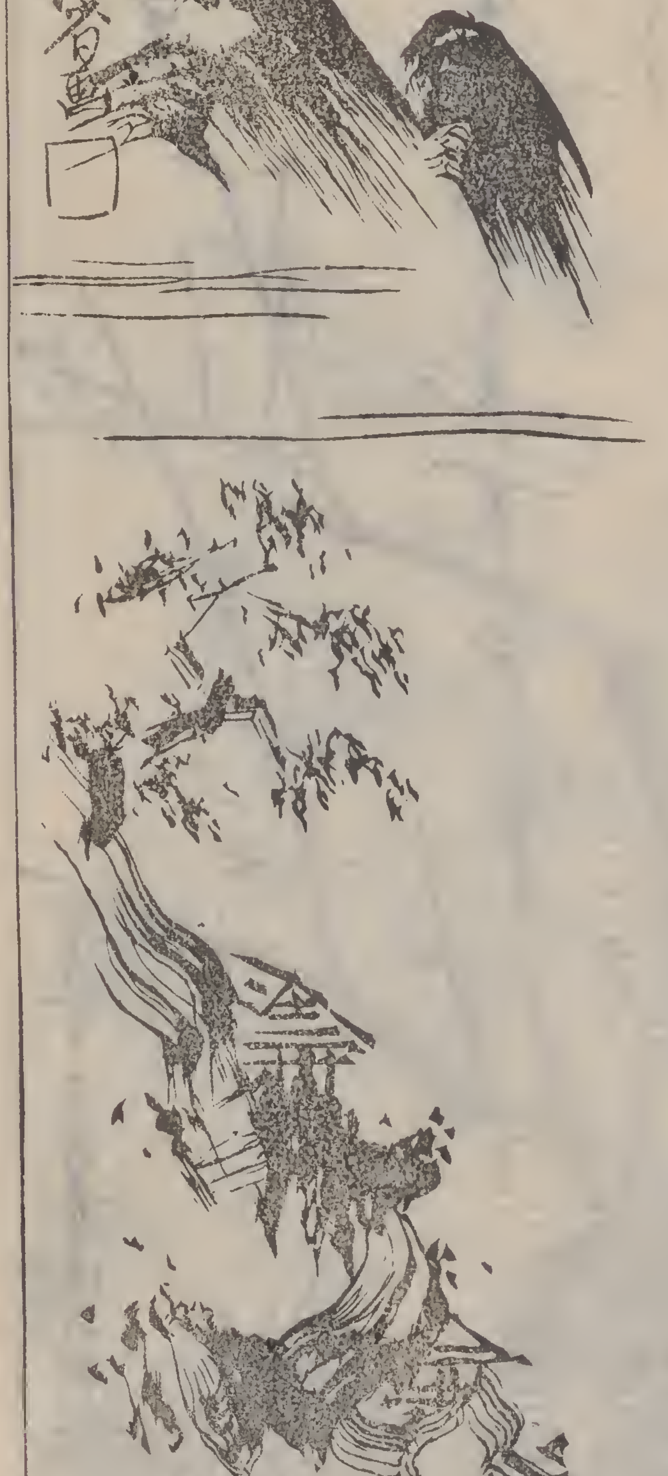
咲さくら
あまの原てちるのと
色て梢鉢と
かりよにきゑ
梅のくし花
うすみ

六十九翁紫翠千波省画

すゞみをまねんとて
竹くへ三件乃
ゐなかきつゝと
呼のかゝり所

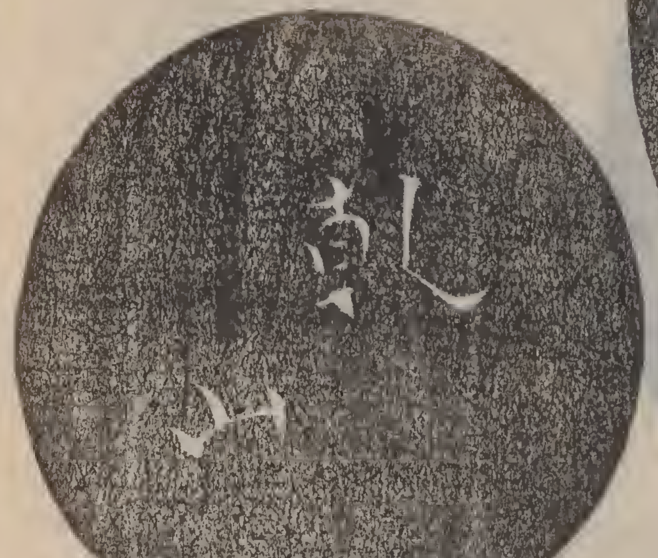
皇都七旬紫翠千波省六十歳画

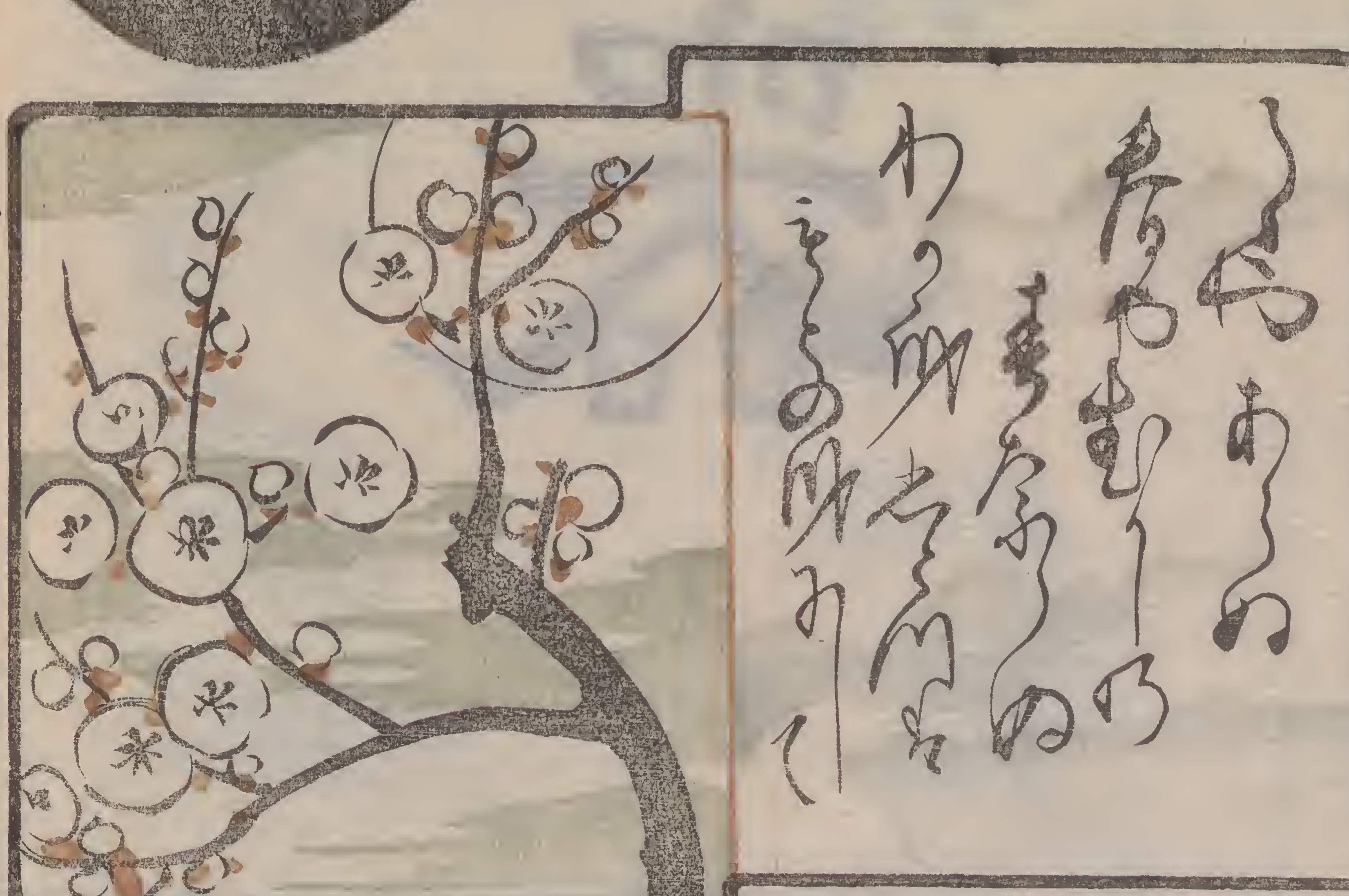


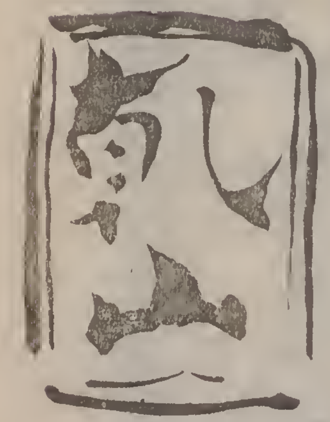


陶器

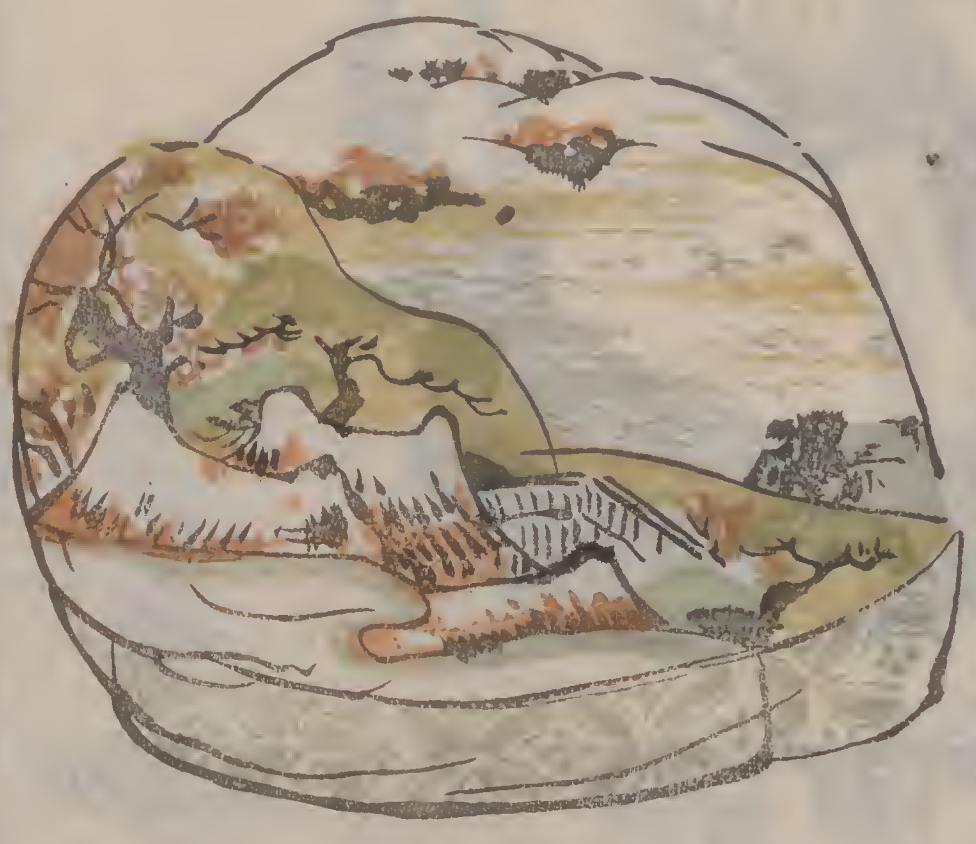
香合







香合



菓子皿 光琳畫福禄壽 乾山讃

余
緒方流の画を学ふ事久しく雖更に
家を得れハ光琳乾山一羽の名家にして
世に知る處なれとも何る年洛の好事
中より既に光琳の墓あるを尋に絡
を尋ねて墓石倒虚亭ハ此の作をなし
て題号をなしもさしも知らす建て
ハ乾山の墓碑をも尋ねるにも處を知

らすして年頃京師の人に問ひ雖
さらにしれハ此年十月に計して古筆
了佐の弟子帯に相伴て上野を噂く
深省の墳墓ハ梅岩菴のうしろ寿亭
の善養寺にありと日頃聞て見ん
とてのとめし處を拂ひてに香
花を手向謹拝して草庵に帰るの

遺墨を写し置る紙文庫のうちより出る

撰出して一小冊となし備方流の降光

をいのらし遊稿の心をかほんとも時

文政六年癸未十月軒山生年は十一没

てより早に七十五年丁酉一年なるも

め夢なり

松齋林康雨亭昇植一樵筆